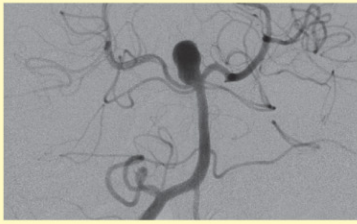
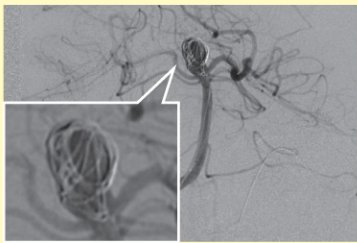


開頭しない脳血管内治療



破裂するとも膜下出血を引き起こす脳動脈瘤



破裂を防ぐためにコイル（糸状の金属）をつめていく



体内の様子を確認しつつ脳血管内治療を進める



脳神経外科の5人の医師とスタッフ。医師は右から藪内伴成医師、湯上春樹医師、寺本佳史医師、山田公人医師、吉岡宏真医師

医療法人 讃和会 友愛会病院

脳血管内治療と外科手術の高い技術で 大阪市南西部の脳疾患治療を担う

脳疾患治療 最前線

脳卒中・脳腫瘍・脳動脈瘤などの先端治療

診療科目：内科、整形外科、脳神経外科、消化器内科、麻酔科（濱岡 直也）、リハビリテーション科、放射線科
病床数：170床 受付時間：8:30～11:30 / 13:00～15:30 休診日：日・祝

〒559-0006 大阪府大阪市住之江区浜口西 3-5-10 TEL.06-6672-3121 (代表) <http://www.sanwakai.jp/>

低侵襲な脳血管内治療と 機能回復を目指す手術

脳動脈瘤や脳梗塞に対して手や足の血管から機器を送り込み、開頭せずに症状の改善を目指す脳血管内治療。同治療に力を入れている病院として、大阪市南部で脳疾患の治療・救急を担う友愛会病院がある。「脳血管内治療は、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤をコイルでつめるほか、脳梗塞の原因となる頸動脈狭窄症に対するステント留置や血栓の回収に実践します」と、治療を手がける寺本佳史医師は説明する。この治療は局所麻酔下で足の付け根や肘を2～3ヵ所切開するのみで行え、患者のメリットが大きい。故に、地域の脳血管内治療のニーズに応えるため、同院では専用の外来診療日も設けて相談を受け入れている。

同時に「当科では『すべては患者さんのために』のスローガンのもと、一人ひとりの病状に適切な治療を決めています」（寺本医師）として、開頭手

術もまた積極的に実践している。「患者さんの生命を助けるだけではなく、損傷を受けた脳の機能回復も考えています」。そう、外科手術に携わる藪内伴成医師が語るように、同科では損傷を受けた脳でも極力麻痺などの後遺症を起こさないような手術に努めていくという。

これらの治療を軸に、同科では全スタッフが協力して入院から回復期リハビリテーション、在宅復帰まで一貫して対応しつつ、患者の紹介や勉強会の開催など、他の病院・診療所とも密に連携している。「私達の技術と知識をすべて投入し、患者さんに元気で歩いて帰って頂くことを常に心がけています」と藪内医師。今後それをさらに強化するため、新型機器の導入や、研修医の受け入れも積極的に進めるといふ。「脳神経外科に数居の高さを感じる方は多いのですが、些細な症状に疾患が隠れていることもあるだけに気軽に受診して頂きたいですね」と寺本医師は語る。